

元氣のヒント



東 雅之

徳島大学病院口腔内科

通常、唾液は一日あたり1000～1500ミリ分泌されていて、口内の細菌を洗い流したり、消化を助けたりするなど重要な役割を果たしています。この唾液分泌量が低下すると、「口腔乾燥症」を発症します。口腔乾燥症は近年急増していて、目が乾く、「ドライアイ」と対比して「ドライマウス」という言い方もされています。

発症原因としては、①唾液を作る唾液腺の機能低下・喪失の精神・神経性または薬剤が原因である薬物性②糖尿病や腎臓病、貧血などの全身性疾患または代謝性③に大別

口腔乾燥症

されます。①の唾液腺自体に原因があるものとしては、加齢性変化や口腔がんに対する放射線治療による影響、また自己免疫疾患である「シェーグレン症候群」があります。自他覚的症狀として、口の中や口唇が乾く、バサバサするといった口腔乾燥症狀がみられるほか、強い口臭、唾液の白濁化、さらには虫歯や歯周病、摂食・嚥下障害、時には誤嚥性肺炎などの感染症や、上部消化器障害などが生じます（表参照）。

診断に際してはまず、既往歴と服用中の薬剤を明らかにすることが必須です。次に唾液分泌量を

分泌促す食品摂取を

◁29▷

測定し、減少がみられるものの原因が特定できないときは、口腔乾燥症の診断方法が確立されている「シェーグレン症候群」の診断手順にしたがって、検査を行います。治療については、原因が明らかで、糖尿病や貧血など治療が可能な場合、その原疾患を治療することが必要です。一方、加齢や放射線治療、シェーグレン症候群などが原因の場合は、唾液腺自体に障害があるため治療は容易ではありません。

口腔乾燥症の治療薬としては現在、数種類の内服薬が用いられています。が、疾患の根治性を有する薬剤はないのが現状です。したがって、対症療法として含嗽剤（うがい薬）や保湿剤、無糖のガムなどの使用、また、唾液分泌を促進させるような食品を摂取するように努めるといった日中の食

口腔乾燥症患者の主な自他覚的症狀

自覚的症狀	口や口唇が乾く、口内がバサバサする 口の中が粘つく、口がくっついて開きにくい 口内が痛い、しゃく熱感がある 舌が荒れる、びりびりする、しょうゆがしみる 食べ物が飲み込みにくい、味が分かりにくい 会話がしにくい
他覚的症狀	口や舌を絶えず動かし、時には口唇をなめている 口唇に亀裂が見られ、口唇周囲が荒れている 口腔粘膜が乾燥し、擦過によりはく離や出血が起こっている 唾液が白濁し、口腔粘膜に泡状に付着している 口呼吸の頻度が多い、口臭が強い

必要な唾液不足し発症

生活管理が重要であると法として含嗽剤（うがい薬）や保湿剤、無糖のガムなどの使用、また、唾液分泌を促進させるような食品を摂取するように努めるといった日中の食

のQOL（生活の質）は著しく低下します。そこで現在は、科学的根拠に基づいた治療法の開発が進められているところで

今年4月、徳島大学病院に「口腔内科」が新設されました。同科では、「口腔乾燥症」のように、大規模な手術を必要としない疾患を対象に、内科的、外科的治療を行っています。